



未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 2月号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 平木 恵美
令和3年2月1日発行

寒さに負けず、元気に活動しています！

寒い日々が続いています。学校では換気をしているので、いつも以上に校舎内は寒く感じられます。そんな寒い中ではありますが、今年はインフルエンザの報告もなく、子どもたちは日々元気に過ごしています。それも保護者地域の皆様の支えあつてのことと存じます。感謝申し上げます。

さて、1月は予想通りあつという間に過ぎてしまいました。どの学年も年が明け、一年の成長を感じながら様々な活動を行っています。その一部をご紹介します。

1年生、2年生は生活科で昔遊びを行いました。日本の伝統の遊びに触れるよい機会となりました。3年生は鶴嶺小学校の昔という題材で2月に学校評議員でもあられる鴨志田先生からお話を聞きます。



4年生は講師の先生をお呼びし、情報モラルについて学びました。ICT機器をより良い方法で活用できるようになってほしいと思います。5年生は、学年でクラス対抗「つるリンピック」と銘うちリレーや綱引きなどを行いました。6年生は残り少なくなった小学校生活を満喫するとともに、最後の学習のまとめをしています。

朝の登校の様子や学校全体を歩いていると児童の一年の成長が自然と伝わってきます。2月はまとめと次年度の準備の時期として日々の生活を充実させていってほしいと思います。

大人と子供のいい関係～子供は自ら育つ力を持っています～

1月号でもお知らせしました、市主催の幼児教育の研修会でご講演いただいた柴田愛子さんの演題です。「子育てをするときに様々な思いを持ち、願いを持って育てていきます。その中で、こんなことに思い当たることはありませんか。」と切り出しながら具体的な場面を添えてお話をされました。その中でいくつか心に残った言葉をご紹介します。

- ・子どもの行動で「もういい加減にやめてほしい」と思うことはありませんか。子どもは何事も堪能することで卒業します（やらなくなる）。卒業するまでに要する時間は一人一人違い、発達のカリキュラムは個々に持っています。大人は早く卒業すると嬉しく、遅いと不安になります。が、卒業してみれば、みんな「ああよかった」という気持ちになるもの。慌てないことです。
- ・子供が泣いていると大人はなぜ泣いているかそのわけを知りたいと思います。しかし、子どもはわかってほしいというのではなく、共感してほしいのです。大人は言葉で安心しようとしませんが、子どもは無条件でかかわってくれる人や場所があればよいのです。見守ること、大丈夫と言ってやること、放置しないことが大切です。

といった言葉がありました。最後に、「自分にプレッシャーをかけてよい親になろうとすること、こんなことはする必要がありません。人間(親)と人間(子ども)が育ちあっていくことが大切です。」とまとめていました。子育てが肩の力を抜いてできるヒントになるとよいと思っています。

プラザ^①

3月 9日(火) スクールカウンセラー来校日
3月17日(水) 給食終了
3月19日(金) 卒業式・お別れ会
3月24日(水) 推進協主催 歩き方教室
14:00 校庭
3月25日(木) 修了式・離任式
* 3月の行事に関しては、予定が変更されることもあります
ので、ご承知おきください。

3月分 1650円

鶴嶺小学校の校庭東側に、古い正門が保存されています。

「歴史ある鶴嶺小学校」であるからこそ保存されている正門です。今後この「旧正門」のことをを鶴嶺小学校の子どもたちに学習を通して、伝えていきたいと考えています。茅そこで、地域の方でこの正門についてのエピソードをお持ちの方、思い出の写真等の提供できる方を募集いたします。大切に守られてきた「旧正門」を、今後も守っていきたくと考えております。お話を伺える、また、写真提供をお願いできる方がいらっしゃいましたら、1年担任 伊東教諭、または教頭までご連絡ください。よろしくお願いいたします。